

# 作品映像の撮影について

## 1. 演技フロアについて

- ①撮影する場所は、屋内・屋外を問いません。
- ②演技フロアは、一辺30mの正方形を基本としますが、各団体において演技フロアのサイズを確保できない場合は、この限りではありません。

## 2. 撮影機材について

使用するビデオカメラ等（スマートフォン可）は、各団体において準備してください。ステレオマイク及び広角レンズの使用を推奨します。

## 3. 撮影について

- ①大きな体育館でなければ、見切れ（下図の赤い部分）が出てしまうことが考えられます。見切れをできるだけ少なくするために、ビデオカメラ等をフロアから遠ざけて設置してください。また、広角レンズ等を使い、見切れを少なくする工夫をしてください。
- ②全景撮影とし、ズーム機能は使用しないでください。また、三脚等を使用し、ビデオカメラ等を固定した状態でできるだけ高い位置から撮影してください。
- ③映像には、構成メンバー全員（ピットを含む）が映るようにしてください。見切れにメンバーが入ってしまうことは可としますが、初めから終わりまで一度も映らない構成メンバーがいないようご注意ください。ただし、指揮者については、この限りではありません。
- ④演奏演技開始から終了までの通し撮影とし、編集はできません。入退場の撮影は必要ありません。

